

「地域の実情を踏まえた体験活動事業」 (特色化事業)

報 告 書



国立能登青少年交流の家



国立吉備青少年自然の家

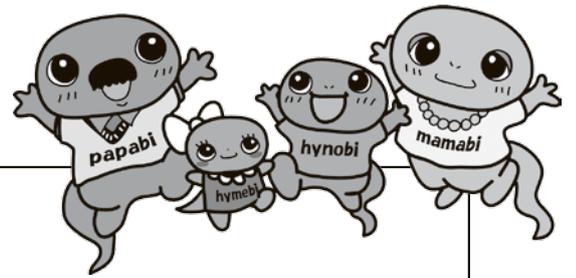


国立夜須高原青少年自然の家

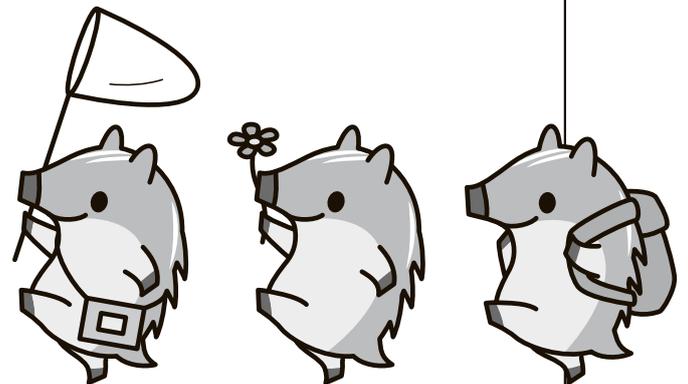
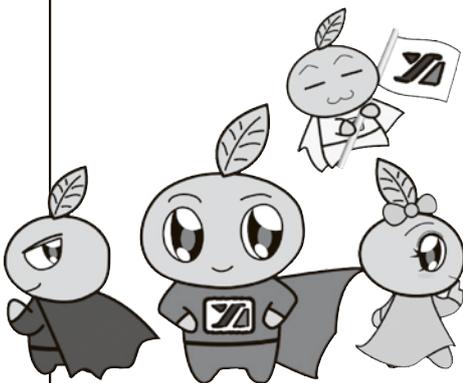
令和7年2月

国立青少年教育振興機構

目次



1	はじめに	1
2	プログラムの紹介（国立能登青少年交流の家）	2
3	プログラムの紹介（国立吉備青少年自然の家）	10
4	プログラムの紹介（国立夜須高原青少年自然の家）	18



はじめに

「分断と対立の時代」この言葉をよく耳にするようになったのは、ここ数年のことでしょうか。新型コロナウイルスによる社会混乱、ロシアによるウクライナ侵攻、激化するパレスチナでの戦闘等、急速なグローバル化とwebアクセシビリティの向上等によって、この傾向はますます顕著になっていくことが危惧されます。

日本国内においては、まだ目に見える大きな衝突はないですが、インターネットのニュースコメントでは、数えきれないほどの火種がくすぶっているのを確認できます。次の時代に向けて「協調と対話」の大切さを改めて認識しております。

国立青少年教育振興機構では、「地域の実情を踏まえた体験活動事業」として、複数年にわたりプログラム開発を行ってまいりました。本報告書に掲載されている事例報告は、「英語を用いた野外炊事（能登）」、「歴史・伝統・文化への理解を深めるクラフト活動（吉備）」、「里地里山の地域文化と環境を考えるウォークラリー（夜須高原）」の3点です。一見すると関連性がないようにも思えますが、共通するテーマとして「異なる文化、環境を肌で感じ、相手の立場を理解し、互いを尊重しあう心の醸成」を念頭にしています。

多文化共生社会の実現に向けた教育の必要性はもちろんですが、現代の子供たちにとっては、「昔の暮らし」や「中山間地域での生活」も異文化そのものです。新しい体験、新しい発見に触れたとき、子供たちの中の「まなびのトビラ」が開きます。そこに様々な事象のつながりや、見えていなかった問題への気づきを促すことが体験活動の意義の一つであると考えます。

掲載のプログラムをとおして、相手を思いやる気持ち、ひいては地域課題について考えるきっかけになることを願いますとともに、能登半島地震やその後の豪雨災害対応でお忙しい中、報告書作成に尽力いただきました能登青少年交流の家はじめ、夜須高原青少年自然の家、吉備青少年自然の家の職員に感謝申し上げます。

令和7年2月吉日

国立吉備青少年自然の家
所長 片山 貞実

1. ねらい

- 仲間との英語を用いた体験活動をとおして、楽しく音声や基本的な表現に慣れ親しむ。
- 安心できる温かい環境の中で、自分の考えや気持ちを英語で表現し、積極的にコミュニケーションを図る素地となる能力を育成する。
- 日常生活において主体的に英語でコミュニケーションを図ることにつなげる。

2. プログラムの概要

- (1) 内容 仲間づくり
- (2) 対象 小学校高学年～大人
- (3) 所要時間 2時間半程度
- (4) 人数 少人数～140名程度

(5) 準備物

貸出：土鍋、鉄鍋、まな板・包丁、ざる、ボール、鉄板、菜箸、軽量カップ、しゃもじ、フライ返し、ピーラー、ガス器具、アルコール消毒液、検食用保存袋

団体：レシピ（HPからダウンロードして印刷、持参。一人一冊）、薪（バターチキンカレー・ガパオライスのみ）、ガスマッチ、筆記用具、クレンザー、食器用洗剤、軍手、ふきん・ぞうきん、スポンジ・たわし、アルミホイル（ジャンバラヤのみ）、キッチンペーパー、救急用品・虫よけスプレー、ゴミ袋

(6) フィールド環境と安全管理

①利用者への注意喚起

- ・手や調理器具等の洗浄を充分に行ってから、調理活動を始める。（または再開する）
- ・手指に生傷等がある場合は、生食材を扱わず、薪割りやかまどに関する役割を担う。
- ・鉄板や鍋等の運搬の際は、軍手の上から厚手の皮手袋をして持つようにする。
- ・水分補給は適宜または一斉に行い、熱中症の予防に努める。

②予測されるリスクとその反応

CASE 1. 刃物による怪我

- ・刃物の持ち方、運び方、片付け方を知るとともに、大きな声で言う（「包丁通ります！」等）意図と効果を考え、確認する。
- ・鉋の未使用時は、刃先を丸太側に沿わせて置く。
- ・薪を持つ手を放しながら鉋を使って割っていき、周囲が安全かどうか確認しながら切る。
- ・薪割りの際は、両手を広げて1m以上の間隔を取ってから作業を始める。

CASE 2. 火傷

- ・鍋等を運ぶ時に大きな声で言う（「鉄鍋通ります！」等）意図と効果を考え、確認する。
- ・火ばさみを使わない時は、所定の場所へ片づける。
- ・鉄板と座席の間の距離を確保したり、作業場所をすみ分けたりして、動線を決める。

CASE 3. 熱中症

- ・暑さ指数が高い場合は扇風機を置いたり、エアコンを使用したりしながら、涼しい場所で休息できるようにする。
- ・暑さ指数による活動場所の変更（薪を割る場所等）を行う。
- ・飲料水の確保と水分補給の声掛けを行う。

(7) 連携のポイント

① 野外炊事に関する事前学習を行い、活動の見通しをもつ

- ・施設ホームページから「材料・用具等の英語表現」や「簡単な英語を用いた調理手順」をダウンロード、印刷し、参加者へ配付する。
- ・引率者等がそれらを用いて全体指導したり、ペアやグループで練習したりする。

② 職員と先生方との役割分担をする

- ・実際に材料や用具を見せながら英語表現を練習したり、デモンストレーションをしたりする際は、役割を分担する。
- ・活動班ごとに、職員と先生方の担当や配置を事前に打ち合わせて決定する。

[資料1] 研修支援団体に提供し、事前課題にする英語表現



3. プログラムの流れ

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
10分	集合・移動	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介をする。 ○食事係は食堂へ野外炊事の食材を取りに行く。 ○全員そろったら、野外炊事場へ移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に係を決めたり、班ごとに整列したりしておく、スムーズに移動できる。 	○食材
20分	導入 セーフティー トーク	<ul style="list-style-type: none"> ○活動のめあてを確認する。 ○刃物の取り扱い方、用具の使い方を伝える。 <p>・「なぜ危険を声に出すとよいのか」考えて、行動に移せるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○良いモデルとそうでないモデルを示しますので、どちらが良いか考える。 	○用具一式
25分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ○材料の英語表現、簡単なやりとりを紹介する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT! </p> <p>★相手に伝わるアイコンタクトとクリアボイスを心掛け、ペアや班で練習したり確認したりするとよい。</p> <p>★物を貸してほしい時は「Please lend me～」を使うように伝える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○全体での練習だけでなく、班の中でも練習し、上手な人やがんばっている人を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ピンマイク ○イングリッシュレシピ (班数分)
75分	調理	<ul style="list-style-type: none"> ○「切る」「炒める」「セットする」「着火する」等2～3文程度の簡単な英語でやりとりする。 ・日本語で伝わる場面でも、積極的に英語表現にチャレンジしてみる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT! </p> <p>★言いつ放しではなく、話し手に応答したり、話し手をほめたりしながら聴けると、もっと英語を使いたくなるように伝える。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○英語表現を楽しみながら慣れ親しめるよう、班で一緒に声を出したり、Thank you等してもらってうれしかったことを積極的に伝える。 	

60分	食事	<p>○子供たちに調理～食事について感想を聞いたり、話してもらったりする。</p> <p>・「おいしい」「最高！」等感想も簡単な英語で伝え合うことで、英語を使う楽しさを味わう。</p>		
30分	後片付け	<p>○点検後の用具の運搬時に転倒や怪我等がないよう、動線を確認して行うように伝える。</p> <p>・だれが、何を片付けるのか明確にして、最後まで責任を持ってやり切るように伝える。</p>		
30分	点検・返却	<p>○点検を依頼する時は英語を使うように伝える。職員が点検する際も、子供と用具を英語でアウトプットしながら行う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★点検は「Please check ~.」で声をそろえてお願いし、全員で職員から「Clear!」をもらう。</p> </div>	○団体や子供たちの忘れ物がないように再度点検する。	

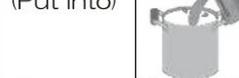
[資料2] 特に野外炊事で使ってほしい英語表現

Please lend me ~. (~を貸してください)	Please check ~. (~を点検お願いします)
----------------------------------	---------------------------------

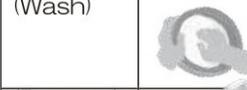
かまど係

すること	挿絵
(Cut)	
(Put on)	
(Light the fire)	

調理係(野菜)

すること	挿絵
(Cut)	
(Put into)	
(Light the fire)	

調理係(お米)

すること	挿絵
(Wash)	
(Put into)	
(Light the fire)	

4. 活動の様子

ガパオライス



【引率者からのレシピ説明】



【説明を聞いてレシピを完成】



【調理、そして仕上げへ】

ジャンバラヤ



【レシピに沿って調理】



【ジャンバラヤの完成】

バターチキンカレーライス



【バターを投入、とろみを出す】



【カレーをみんなで食べる】

カートンドッグ



【仲間のカートンドッグを作る】



【班のみんなとパクリ】

5. 利用者の声

- ① 英語で「切る」「炒める」の表現を使って調理することができた。
- ② 調味料、香辛料をどのくらい入れるのか、班で相談することができた。
- ③ うまく話せなかったけど、英語で気持ちが伝わったらうれしかった。
- ④ 鉄板のみ使い、準備・片付けが短く、その分調理時間を十分に確保することができた。
- ⑤ 初めて知った英語もたくさんあったけど、班の友達と声をかけ合いながら調理することができた。
- ⑥ 他にどんな表現があるかもっと知りたくなった。
- ⑦ 野外炊事で、料理を作りながらたくさんの英語を話すことができた。学校で学んだ英語を使って自信になった。
- ⑧ 調理や片付けの時に、ほしいものの数を英語で尋ねたり、答えたりすることができてうれしかった。

6. 成果と課題

令和4年度からプログラム開発を実施し、教育事業をとおして改良を重ねた「野外炊事～世界の料理～」。研修支援で実施した件数は、令和5年度は2件であったが、令和6年度は7件と3.5倍増となった。要因としては、ホームページやInstagramでのタイムリーな周知、「事前プログラム相談DAY」や利用団体との連絡をしている中での提案が功を奏したと言える。前頁で示した4つのメニューの他に、フランス発祥の「サンドウィッチ」「ポトフ」の開発も行えたため、今後は、利用団体のねらいに応じて、複数メニューを提案していくことができる。

利用団体が「野外炊事～世界の料理～」の事前学習を行ってきたため、スムーズに活動に入ることができた。「Cut」「Put on」「Set fire」といった動作の表現を確認した後、食材や用具の表現を練習した。発音をほめたり、ペアで伝えあったり、動作化を入れたりすることで、定着を図り、見通しをもたせることができた。学校団体以外の団体は、対象がほぼ成人年齢だったり、他のメニューとセットでの利用だったりしたため、イングリッシュレシピの提示や紹介にとどめ、調理過程で表現を活用するよう促しながら行うことができた。

また、レシピ資料は持参しても、事前学習が十分取れなかった利用団体においては、引率者とともに、時折グループでの確認や対話を設けながら、手順や英語表現の確認を行った。これにより、耳でインプットしたことを解釈することが容易になり、スムーズに活動を進めることができた。

「野外炊事～世界の料理～」が国際理解をテーマとした英語表現を使った活動であることが、「事前プログラム相談DAY」や当日の指導、SNS等で認知されるようになってきた。今後は、雨天時のプログラム充実を含め、「English NOTO ジョイフレンド」や「English Mission Game」「Shopping Game」等と「Outdoor Cooking」を組み合わせることで、楽しく国際理解を深める提案を行い、利用団体の増加につなげたい。またイングリッシュキャンプ用に作成した英語での「ジャンバラヤ」「ガパオライス」の紙芝居も積極的に活用し、異文化理解を深められるように提供していきたい。

7. プログラム化への経緯

(1) 背景

新学習指導要領の全面実施に伴い、2020年（令和2年度）から小学校中学年以上で教科としての「英語」が必修化された。これまで学校教育では、「書く」「読む」や文法といったスキルの習得に重点が置かれてきた。一方、本プログラムでは、英語表現のインプットとアウトプットを繰り返し、試行錯誤しながら、仲間と協力し、「欲しい物が手に入る」「思いが相手に伝わる」「作りたいものが出来上がる」という体験を積むことができる。学校での既習表現を活用する良さを実感しつつ、未習表現にチャレンジする向上心を育て、自分に対する自信、仲間との協働性を育むプログラムである。

(2) イングリッシュキャンプのプログラム（R6. 5年生）

1日目		2日目	
10:00	Opening ceremony【1h】 Staff Introduction（Staff紹介） School Introduction（学校紹介）	6:30	起床 洗面 掃除
11:00	アイスブレイク【1h】 「仲間と共にNOTOジョイフレンド」	7:00	朝のつどい
		7:30	朝食（食堂）
		8:30	宿舎点検
12:00	昼食（食堂）	9:00	「野外炊事で世界を味わう」【4h】 《Presenting Recipes》
13:00	「世界で遊ぼう」【3.5h】 《Enjoy the game!》	13:30	振り返り
16:30	荷物移動	14:00	Closing ceremony
17:00	夕べのつどい	14:30	帰路
17:30	夕食（食堂）		
18:45	「現地の食材を買い物しよう」 【1.5h】《Shopping Games》		
20:30	入浴		
21:30	就寝準備		
22:00	就寝		

※1日目の日程について

6年生は13:00～「現地の食材を探しに世界へ」【3.5h】《Entry to a country check》
18:45～「世界で遊ぼう」【1.5h】
《Become a game master!》

(3) 英語担当等の声

当教育事業に引率として参加した英語担当教員・ALT・JTE（以下英語担当等）に事後アンケートを実施した。英語担当等の86%が「イングリッシュキャンプの前後で、児童の成長を実感することがありましたか」という問いに対し、「あった」と回答した。自由記述では、「英語を使おうと頭をフル回転させながら、正しくなくてもとにかく言ってみようとする姿勢がみられる」「キャンプ後の英語への関心が高まり、特に授業中に意欲を感じる」といった積極性の高まりや関心意欲の高まりが伺える。また学校での事前指導を十分行った「学校紹介」、仲間づくりを意図して職員主導で行った「NOTOジョイフレンド」については、「有効だった」という肯定的回答の割合が高いが、「現地の食材を探しに世界へ」「野外炊事」といった活動量

が多いプログラムでは低い傾向があった。では、参加児童の主な声を次に紹介する。

(4) 参加児童の声

① 現地の食材を探しに世界へ

- ・ 仲間と協力する大切さと、英語を使って買い物をする楽しさを知った。
- ・ 英語の分かる範囲が広がったので、今後はその英語を使って会話したい。
- ・ 現地での食材集めは英語を使って協力できた。将来様々な国に行って文化を知りたい。

② 野外炊事

- ・ 分からない英語があったから、知っている人に自分からもっと聞きたい。
- ・ 野外炊事での英語がとても心に残った。今後は会話の中でも英語をもっと使いたい。
- ・ 仲間と協力して作れたし、英語にチャレンジする楽しさに気づいた。

参加児童の声をアンケート結果の数値で示す。当教育事業後2か月以内に実施した事後アンケートでは、98.7%の児童が「体験活動をとおして、自分から進んで英語で表現できた」と回答し、どの活動かを尋ねたところ、66.8%が「現地の食材を探しに世界へ」、次いで44.5%が「野外炊事」と回答した。(複数回答可)

これらの結果から、体験活動をとおして英語を意図的に使うプログラムの効果を、児童が実感していることが分かる。学校教育では、表現の正確性やスキルに重点が置かれ、時間的な制約が多い。両アンケート結果から、改めて主体的に学びに向かう力を育む青少年教育施設の役割を再認識することができた。

(5) 研究協力者からの指導・助言 (R2～6)

- ・ ゴールイメージが明確で、英語を使う必要感と有用感のあるプログラム構成が良い。
- ・ 異文化理解の体験、深化が進んでいる。更にコミュニケーション能力向上に向けて工夫してほしい。
- ・ 当キャンプと通常授業との連携や運営スタッフと学校、国際交流員との連携、分担を進めてほしい。

(6) 成果と課題

- ・ 外向き志向率、グローバル人材志向率が共に90%前後を示し、事業は有効であった。
- ・ 児童自ら進んで英語で国際交流員へ質問する等、主体性が育まれた。
- ・ 能力別班編成を組むことにより、引率者にとって児童への支援が具体的にイメージできた。
- ・ 「使ってほしい英語の表現」等を各小学校で事前指導したり、タブレット端末を使って反復して取り組んだりしたことにより、90%超の児童が事前学習が有効であると回答した。
- ・ ゴールイメージとプロセスに見通しをもち、ストーリー性のある活動プログラムにしたことで、仲間と協力する場面が意図的に生まれ、仲間意識の高まりや同僚性が育まれた。
- ・ 児童が国際交流員等と1対1で会話する機会を意図的に設けたことで発言の機会が保証され、英語でのコミュニケーションに達成感を感じることや自信をもつことにつながった。

1. ねらい

弓矢づくりをとおして、岡山県の桃太郎伝説について知ることで、歴史・伝統・文化等を大切に作る心を養う。

※桃太郎伝説…古代、吉備には温羅という鬼が悪事を重ねていた。そこで、大和の王は吉備津彦命（桃太郎のモデル）に温羅を退治するよう命じた。吉備津彦命と温羅は弓矢合戦を行った。そして激しい戦いの末、吉備津彦命は温羅を捕まえ退治した。

2. プログラムの概要

(1) 内容 竹細工（弓矢）（導入指導）

(2) 対象 小学4年生以上

(3) 所要時間 2時間程度

(4) 人数 24名程度

(5) 準備物

貸出：ノコギリ、切り出しナイフ、ハサミ、ノコギリ台、竹割器

団体：注文購入：太い竹（50cm筒直径8cm）・細い竹（40cm直径1cm）

独自購入：タコ糸、スポンジ、ビニルテープ、布、軍手、紙やすり

(6) フィールド環境と安全管理

①利用者への注意喚起

- ・刃物等の道具を正しく使う。
- ・人に向かって弓を引かない。
- ・的の付近に人がいないか確認のうえ、発射する。

②予測されるリスクとその反応

CASE 1. 切り傷等の怪我

- ・作業中は軍手を着用する。
- ・刃物等の道具は冒頭で使い方を説明する。

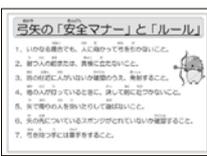
CASE 2. 矢が当たったの怪我

- ・導入の説明時、弓矢体験の直前等繰り返し注意喚起する。
- ・意識しやすいように注意カードを用意して視覚的な支援を行う。

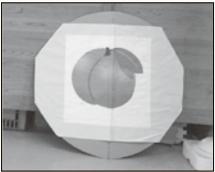
CASE 3. 弓矢での事故

- ・ささくれが立たないように紙やすりで磨く。
- ・矢の先にスポンジと布を付けてクッション性を高める。

3. プログラムの流れ

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
5分	桃太郎伝説について知る。	<p>○指導者やスタッフを紹介する。</p> <p>○岡山県の桃太郎伝説について説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★なぜここで弓矢をつくるのか知り、弓矢作りへの興味を高めていく。</p> </div>	<p>○指導者やスタッフの名前が分かるように名札を付けておく。</p> <p>○桃太郎伝説を分かりやすく伝えるために紙芝居を使う。</p>	・桃太郎伝説の紙芝居
5分	弓矢を扱う際の注意事項を確認する。	<p>○『弓矢の「安全マナー」と「ルール』』について説明し、守ることを約束する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★完成した弓矢の取扱いについて知り、安全意識を高めていく。</p> </div>	○注意事項が分かりやすいようにカードで示す。	<p>・注意カード</p> 
10分	手順カードをもとに、弓矢の作り方の流れから片付けの仕方までを知る。	<p>○手順カードをもとに、弓矢の作り方の流れから片付けの仕方までを説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <p>★一連の流れを知ることで見通しをもたせる。</p> </div>	○作り方の流れが分かりやすいように、写真入りの手順カードを使う。	<p>・手順カード</p> 

5分	太い竹を竹割器を使って割る。	○見本を見せながら、太い竹を竹割器を使って割る。	○竹を割った際に危険のないように、周囲の人を遠ざける。 ○衝撃を和らげるために、軍手を着用させる。	・竹割器  ・軍手
5分	刃物の使い方の見本を見る。	○見本を見せながら、ノコギリや切り出しナイフの使い方を説明する。	○軍手を着用させる。 ○刃物を持ち歩くときにはトレイに乗せるようにする。	・ノコギリ ・切り出しナイフ ・トレイ ・軍手
45分	弓と矢を作成する。	○団体代表者に安全に留意して作成するように依頼するとともにあとの指示を出す。 【弓の作り方】 ①竹の両端に切れ込みを入れる。 ②竹を曲げて、タコ糸で弦を張る。 【矢の作り方】 ①細い竹の先に矢筈となる部分を削る。 ②細い竹の先にスポンジを付け、布で覆う。	○刃物の扱いに慣れていない子供には引率者がつくようにする。 ○軍手を着用させる。	・ハサミ ・タコ糸 ・スポンジ ・ビニルテープ ・布 ・軍手 ・紙やすり
15分	片付けをする。	○団体代表者に片付けの仕方を説明しておく。	○次の団体のことを考えて、元の状態に戻す。	・ほうき ・ちりとり

<p>30分</p>	<p>弓矢体験をする。</p>	<p>○団体代表者に安全に留意して行うように説明しておく。</p>	<p>○安全マナーを再確認して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①いかなる場合でも、人に向かって弓を引かない ②射つ人の前または、真横に立たない ③的の付近に人がいないか確認のうえ、発射する ④他の人が打っているときに、決して的に近づかない ⑤矢で周りの人を突いたりして遊ばない ⑥矢の先についているスポンジがとれていないか確認する ⑦弓を持つ手には軍手をする 	<p>・的</p> 
------------	-----------------	-----------------------------------	---	---

4. 活動の様子



【弓をつくる様子①】



【弓をつくる様子②】



【弓を仕上げる様子】



【矢をつくる様子①】



【矢をつくる様子②】



【完成品】



【弓矢体験①】



【弓矢体験②】

5. 利用者の声

- ① スタッフに丁寧に教えていただき、楽しく弓矢を作ることができた。
- ② 親子で協力して楽しむことができた。
- ③ 自分で作った弓矢が楽しくて、夢中になって遊ぶことができた。
- ④ 想像以上に矢を飛ばすことができ楽しかった。
- ⑤ 知っている桃太郎の話と違うところもあり、歴史に興味をもつことができた。
- ⑥ 吉備ならではのプログラムでおもしろかった。

6. 成果と課題

教育事業で弓矢作りを行った際には、弓矢が大きいことにより取扱いの困難さが課題となっていた。そこで、弓矢の大きさを小さくすることで作業もやりやすくなり、持ち運びも便利になった。作業時間の短縮となったため、弓矢体験の時間がしっかりと確保できた。

子供は普段の生活の中で刃物を使う機会が減少していることから、ノコギリや切り出しナイフの使い方は実演を示しながら丁寧に指導した。そうすることで安全に活動することができた。

教育事業で実施した際には準備物が多かったのが懸念だったので、準備物も厳選して、タコ糸等団体に準備してもらうものについては、100円ショップ等で比較的手に入れやすいものを選んだ。

完成した弓矢を使う際には、友達同士で打ち方を教え合う姿が見られる等、協力することをねらいとした活動プログラムにもなり得る。

令和6年度、弓矢作りを活動プログラムとして取り入れた研修支援の団体は2件だった。安全の面から適正人数を24名程度にしたこともあり、大人数の団体には活動プログラムとしては取り入れにくかったことが考えられる。また、周知ができていなかったこともあるので、SNSを利用して活動の様子を知らせる等、活動プログラムの広報に努めていく。

教育テーマ「『郷土岡山を大切にする心』の育成」について、利用者から「知っている桃太郎の話と違うところもあり、歴史に興味をもつことができた」「吉備ならではのプログラムでおもしろかった」という声もあり、「竹細工（弓矢）」は有効的なプログラムだと考える。より高い効果を期待して、きびだんご作り等と合わせて提供を呼びかけていきたい。

7. プログラム化への経緯

(1) 背景

第3次岡山県教育振興基本計画の重点施策の1つとして、「郷土岡山を大切に作る心」の育成が挙げられている。具体的な資質能力としては「郷土岡山や我が国の歴史・伝統・文化等を大切に作る心」で、郷土岡山や我が国の歴史・伝統・文化等を学ぶことにより、郷土岡山を大切に思う心や、郷土岡山を全国、そして世界に発信する態度を育むこととされている。

このことから、郷土岡山を知り、大切に思う心をもつ児童生徒を育てたいと考え、国立吉備青少年自然の家テーマである「桃太郎のさと吉備」をもとに、郷土岡山に関連する活動、桃太郎伝説にまつわるロングウォークや弓矢づくり、火起こし体験、きびだんご作り等を取り入れた教育事業「桃太郎チャレンジ」を企画した。

(2) 「桃太郎チャレンジ2021（8/15～8/21）」

令和3年度に「桃太郎チャレンジ2021」を企画したが、コロナ禍により「古代吉備キャンプ2021（12/26～12/28）2泊3日」に変更して実施した。

よりふさわしい教育事業を実施するために、大学教授や学校校長会の方等の協力を得て部会を設置してその向上を目指した。そのなかで、このキャンプのコンセプトで日本遺産にも登録されている『「桃太郎伝説」の生まれたまちおかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語』をもっと身近に感じるためには、物語で登場した物を実際に作るのはいかがでしょうかという意見を委員よりいただいた。そこで、物語の中で特に目立った活躍をしていた「弓矢」に着目し、一から作成して体験するプログラムを行うこととなった。しかし、弓矢を作成して実射することは、他のプログラムに比べて危険度が高く、参加者の安全性の確保が課題であった。委員の中で弓矢を竹で作成したことがある方が複数名おり、その時の状況・注意点等の聞き取りや、アーチェリーを提供している民間施設に視察を行う等情報収集を行い、実施するプログラムのマニュアルおよび安全マナーを作成して事業に臨んだ。

プログラムの改善点として、刃物を使う作業にもっと多くの時間を確保することがあげられた。大人なら10分もあれば終わる作業も、児童は1時間ほどかかることもあり、安全性と効率の両立が求められることが分かった。刃物を使用し始めたばかりということもあり、刃の形状の意味や使い方等を説明する必要もあった。

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	12/26(日)						受付 開会式	オリエン テーション 押問づくり	昼食 (レスト ラン)	桃太郎体験① (弓矢づくり)			野外炊事			入浴	紙芝 居	就寝 (宿泊様)
2日目	12/27(月)	就寝	起床 清掃 朝食 (弁当)	バス 移動	ロングウォーク (吉備津神社～鬼ノ城 約20km) 昼食(弁当)						バス 移動	夕食 (レスト ラン)	ミニキャンプ ファイヤー	入浴	就寝 (宿泊様)			
3日目	12/28(火)	就寝	起床 清掃 片付け	朝食 (レスト ラン)	桃太郎体験② (火起こし体験& きびだんごづくり)		開 会 式											

(3) 「桃太郎チャレンジ2022（8/18～8/20）」

令和4年度には、「桃太郎チャレンジ2022」を実施した。新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されたため途中で中止となった。弓矢づくりの課題として、弓用の長い竹は体の小さい児童では扱いづらいこと、矢用の細い竹は重量を重くするとうまく飛ばないことが分かった。安全面では、怪我をする児童もなく時間内に片付けまで終わることができた。来年度に向けて、研修支援プログラムにした場合の指導法や提供方法等を詰めていくこととした。

日数	日付	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	8/18(木)								受付	開会式	オリエンテーション	昼食(レストラン)	仲間づくりゲーム ルール作り		野外調理		振り返り	入浴(ロッジ)	就寝(ロッジ)	
2日目	8/19(金)		就寝	起床清掃	野外調理	桃太郎体験①(弓矢づくり)		昼食(レストラン)		テント設営		火から起こす 吉備団子づくり +野外調理		振り返り	シャワー	就寝(テント)				
3日目	8/20(土)		就寝	起床清掃	野外調理	桃太郎体験②(アドベンチャーオリエンテーリング)		昼食(レストラン弁当)		以降中止			荷物整理	バス移動	テント設営	野外調理	入浴(岡山みやび温泉 大家族の湯)	振り返り	就寝(テント)	
4日目	8/21(日)		就寝	起床清掃 テント撤収	野外調理	ロングウォーク① ももっこ広場～吉備津彦神社～吉備中山～ 吉備津神社～鯉喰神社～岡山市立加茂小学校 昼食(レストラン弁当) 約10km	移動	吉備津彦産	入浴(瀬戸大橋温泉 やま幸)	テント設営	夕食(レストラン弁当)	振り返り	就寝準備(自由)	就寝(テント)						
5日目	8/22(月)		就寝	起床清掃 テント撤収	朝食(レストラン弁当)	ロングウォーク② 岡山市立加茂小学校～砂川公園 約9km 昼食(レストラン弁当)	移動	休憩	入浴(吉備路温泉)	テント設営	野外調理	振り返り	就寝準備	就寝(テント)						
6日目	8/23(火)		就寝	起床清掃 テント撤収	野外調理	ロングウォーク③ 砂川公園～鬼ノ城～奥坂休憩所 約9km 昼食(レストラン弁当)	移動	バス移動	荷物移動	振り返り 発表準備	夕食(レストラン)	入浴	キャンドルの ついで 振り返り	就寝(宿泊棟)						
7日目	8/24(水)		就寝	起床清掃	朝食(レストラン)	移動	振り返り 閉会式の発表準備	閉会式												

(4) 「桃太郎チャレンジ2023 (8/17～8/23)」

令和5年度の「桃太郎チャレンジ2023」(8/17～8/23)での弓矢づくりでは、竹を固定したり、ノコギリを使ったりする学生ボランティアの体験不足とそれを補うはずの事前研修の在り方がどうだったのかが課題となった。このキャンプの目的の一つに「コミュニケーション力を高める」が盛り込まれていたことを考えると、この活動の中でお互いに知恵を出し合い、弓を改良する時間があるとさらにコミュニケーションが高まることにもつながるのではという意見が委員から出た。

これらの経緯を踏まえて、弓矢のサイズを小さくする等改良を重ねて、研修支援プログラムとして提供することとなった。

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	8/17(木)								受付	開会式	オリエンテーション	昼食(レストラン)	仲間づくりゲーム	桃太郎体験①(弓矢づくり)	夕食(レストラン)	ふりかえり ルール作り	入浴(ロッジ)	就寝(ロッジ)		
2日目	8/18(金)		就寝	起床清掃	朝食(レストラン)	桃太郎体験①(弓矢づくり)		昼食(レストラン)		テント設営		火から起こす きびだんご作り +野外調理		ふりかえり	シャワー	就寝(テント)				
3日目	8/19(土)		就寝	起床清掃 テント撤収	朝食(レストラン弁当)	桃太郎体験②(アドベンチャーオリエンテーリング)		昼食(レストラン弁当)	バス移動	吉備津彦産	バス移動	テント設営	ふりかえり	野外調理	入浴(岡山みやび温泉 大家族の湯)	就寝準備	就寝(テント)			
4日目	8/20(日)		就寝	起床清掃 テント撤収	朝食(レストラン弁当)	ロングウォーク① ももっこ広場～吉備津彦神社～吉備中山～ 吉備津神社～鯉喰神社～岡山市立加茂小学校 約10km	移動	昼食(レストラン弁当)	ふりかえり	作戦タイム(6日 目夜の活動について)	入浴(瀬戸大橋温泉 やま幸)	テント設営	夕食(レストラン弁当)	就寝準備	就寝(テント)					
5日目	8/21(月)		就寝	起床清掃 テント撤収	朝食(レストラン弁当)	ロングウォーク② 岡山市立加茂小学校～矢喰神社～砂川公園 約9km	移動	昼食(レストラン弁当)	入浴(吉備路温泉)	テント設営	ふりかえり	野外調理	就寝準備	就寝(テント)						
6日目	8/22(火)		就寝	起床清掃 テント撤収	朝食(レストラン弁当)	ロングウォーク③ 砂川公園～鬼ノ城～奥坂休憩所 約9km 昼食(レストラン弁当)	休憩	バス移動	荷物移動	振り返り 発表準備	夕食(レストラン)	入浴	みんなで 決めた活動	就寝(宿泊棟)						
7日目	8/23(水)		就寝	起床清掃	朝食(レストラン)	移動	ふりかえり 閉会式の発表準備	閉会式												

1. ねらい

夜須高原青少年自然の家（以下、自然の家）が立地するエリアは、日本の典型的な里山の水源エリアである。そこに育つ樹木が作る森によって、水を蓄え、豪雨による土砂の流出を防ぎ、様々な動植物の住処を提供するとともに、そこに暮らす人々の燃料としても活用され文化・生活を作り出している。同時に高齢化に伴う担い手不足によって、里山の維持・保全に課題を抱える地域でもあり、この課題は夜須高原、筑前町のみならず、全国共通の課題でもある。

そこで、里山に寄り添った生活サイクルを自然の家で体系化したプログラムとして体験し、自らの生活に結び付け、持続可能な社会の在り方について考える契機となるよう本プログラムを実施する。

2. プログラムの概要

(1) 内容：里地里山ウォークラリー

(2) 対象：小学生以上

(3) 所要時間：1時間半～2時間程度

(4) 人数：最大200名まで

(5) 準備物

貸出：地図、解答用紙、ゼッケン、スコップ

団体：筆記用具、バインダー、タオル、水筒、帽子、長袖長ズボン、リュック

(6) フィールド環境と安全管理

①利用者への注意喚起

- ・本活動は、各班でコース上を歩く活動になるため、団体の引率者には地図上の森エリアを立哨ポイントとしてもらうようお願いしている。
- ・森エリアのポイントでは、スコップで土の固さ等を確認してもらう必要があるため、先生方にスコップを渡し、参加者がスコップを持って移動する必要があるように工夫している。

②予測されるリスクとその反応

CASE 1. 看板での怪我

- ・チェックポイントや森エリアの立て看板については、看板でケガをすることがないように角を削り、丸くして設置した。

CASE 2. 道に迷う

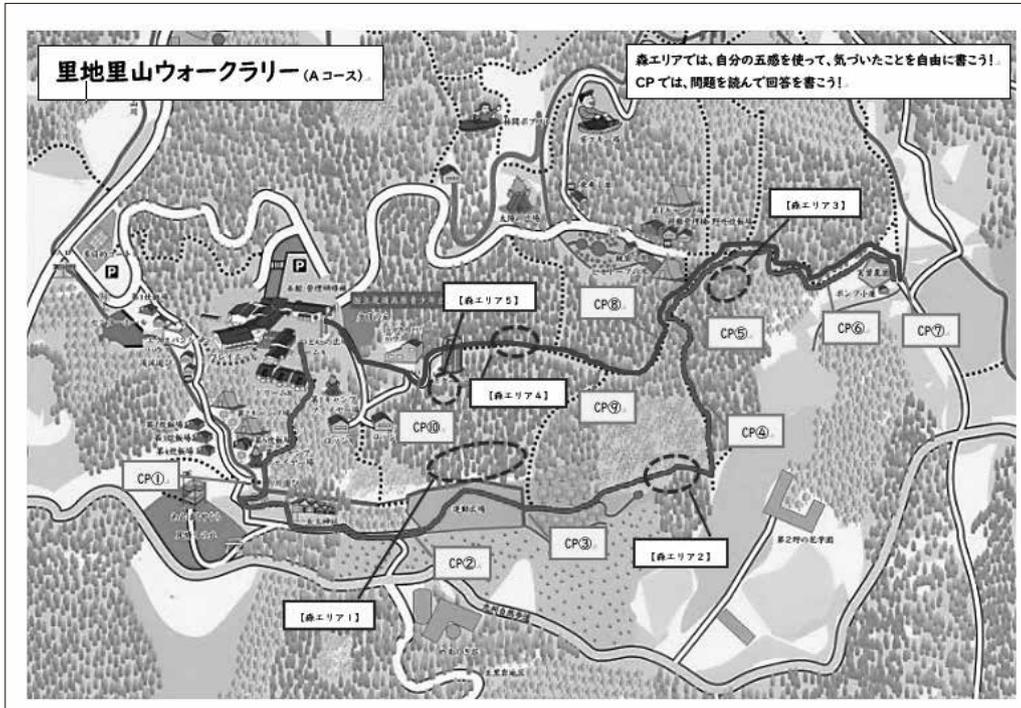
・森エリアにはスコップで土の固さを確認するポイントがあるため、先生方の立哨ポイントとしていること、さらには活動前の説明では道に迷った場合には、ポイントに立っている先生方に出会うまで来た道に戻るよう説明している。

また、本プログラムはあくまでも里地里山の現状を知り、学ぶことが優先されるため、道迷いを極力避けるためにコース上には多くの矢印看板を設置している。

3. プログラムの流れ

所要時間	内容	指導者の働きかけ	留意点	準備物
5分	ルールの説明 及び安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの確認 ・活動中の注意事項の伝達 ・解答用紙の書き方 ・「里」とは？「里山」とは？の投げかけ <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ★「里」とは・・・ 人や家が集まって集落をなしているところ ★「里山」とは・・・ 人が生活に利用してきた山林のところ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人作業がメインであり、自分が体感したことを自由に書く ・班行動 ・道迷いの対処法の伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図 ・解答用紙 ・筆記用具
1時間半 ～2時間	活動	<ul style="list-style-type: none"> ・立哨ポイントとなる森エリアでスコップを持って待機し、参加者が到着後、スコップで地面の固さをチェックさせる ・参加者の気づきが深まるような声掛け <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>POINT!</p> <ul style="list-style-type: none"> ★チェックポイントには、里山に関する現状や問題点、山・川・海との関係性、竹害の問題等に関する問題を設置することで、参加者の気づきを促す。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者には気づきを促すような声掛け 	<ul style="list-style-type: none"> (引率者) ・スコップ (参加者) ・水筒 ・タオル ・リュック ・筆記具 ・バインダー

10分 (帰着したグループから)	答え合わせ及びふりかえり	・チェックポイントの答え合わせ ・班内で共有 ・(時間があれば)全体共有	・個人の体感であるため、正解はないことを伝達
---------------------	--------------	--	------------------------



里地里山ウォークラリー地図

里地里山ウォークラリー (Aコース) 解答用紙 (解答)

「里地里山ウォークラリー」は、地図を見ながら進み、各エリアに到着したら周りをよく見て、下のマスに気づいたことを書きましょう！
さらに、チェックポイントでは立ち着様を読み、解答を書きましょう！

【注目ポイント】土、葉っぱの形、木の幹や根、空、音、など

【◎:目で見る △:臭いをかぐ ○:音を聞いてみる □:手でさわってみる】

【森エリア1】
※運動広場の奥の森を見ましょう！ (◎、△、○)

◎	△
○	□

【森エリア2】
※周りに生えている木の種類と地面を観察しましょう！ (◎、△、○、□)

◎	△
○	□

【森エリア3】
※道路の奥に生えている木の種類や葉っぱ、地面を観察しましょう！ (◎、△、○、□)

◎	△
○	□

【森エリア4】
※道路の左右に生えている木を観察して違いを見つけましょう！ (◎、△、○、□)

◎	△
○	□

【森エリア5】
※川の状況を観察しましょう！ (◎、△、○、□)

◎	△
○	□

【チェックポイント】

CP1:人々は里山の環境を循環させるためには、何を肥料、薪や炭に利用していたでしょう？ (落ち葉、木や枝)

CP2:里山〜川〜海は、栄養を運ぶ何と呼ばれるでしょう？ (道)

CP3:里山があることで河川の量はどうなるでしょう？ (安定的になる)

CP4:竹はどのようにして周囲に拡大するでしょう？ (地下茎)

CP5:里山の恵みを何と呼ぶでしょう？ (生態系サービス)

CP6:手入れが行われない里山は、竹林等の拡大でどんな森になるでしょう？ (暗い森)

CP7:里山に生えている木は、冬になるとどうなる木が多くなるでしょう？ (葉っぱを落とす)

CP8:水の循環の際に、里山は何を行い、栄養や養分を運ぶでしょう？ (浄化)

CP9:竹の地下茎を放置し、枯れると土砂崩れや水源の地形の変化から何に影響がはじまるでしょう？ (水or生活環境)

CP10:里山を守ることが何を守ることにつながるでしょう？ (川)

※その他に気づいたことや感じたことを書きましょう！

【名前: _____】

里地里山ウォークラリー解答用紙 (解答入り)

4. 活動の様子



【森の中の土の固さを確認①】



【森の中の土の固さを確認②】



【竹の皮の手触りを確認】



【密集した杉林の様子を確認】



【杉の中に竹が侵食している様子の確認】



【チェックポイントの看板】

5. 利用者の声

- ① 自然が壊れてしまうと自分たちが困り、美しいものを見られなくなると気づいた。
- ② 足で土を踏んで見ると柔らかいところや固いところがあった。
- ③ 土が気持ちよかった。
- ④ 土の柔らかいところもあれば固いところもあり、竹や木もあって楽しかった。
- ⑤ これからもっと自然を知り、守りたくなった。
- ⑥ 山には音、さわった感触、におい等たくさん感じられるものがあった。
- ⑦ 自然を守るのは難しいと思ったけど、水等のおかげで守ることはできると思った。
- ⑧ 自然を守ることが改めて大切だと思った。
- ⑨ 自然を守ったり、大切にしたりするとたくさんのいい事があるのが分かった。

6. 成果と課題

(1) 調査の実施

本プログラムの教育効果を検証するために以下の内容で調査を実施した。

(2) 調査実施日

- ① A大学教育学部 大学生 20人 【令和6年6月1日(土)】
- ② B小学校 小学5年生 129人 【令和6年9月25日(水)】
- ③ C小学校 小学5年生 89人 【令和6年10月12日(土)】

(3) 調査方法

本調査は、アンケート調査を用いることとし、参加者の環境に対する意識の変化を把握するため、活動前後で一斉配布回収方式でのアンケート調査を実施した。活動前後の分布に違いがあるかを検定するためウィルコクソンの符号順位和検定を有意水準5%検定で実施し、活動前後において「自然への感性」、「環境配慮」等に関する11項目に5段階評価で調査を行った。アンケートの項目群及び質問内容については、以下のとおりである。

①自然への感性

1. 自然の中で遊ぶことは好き
2. 花や風景等美しいものを見ると感動できる
3. 生き物を大切にしたい
4. 花の世話は好きではない

②環境配慮

5. 自然が壊れると困ったことになる
6. 子供の自分たちでも自然を守ることができる
7. 自然が壊されても、他の誰かが守ってくれるから大丈夫だと思う
8. 自分一人でも自然を守りたい
9. みんなで協力すると自然を守ることができる
11. 家族や学校の先生たちも自然を守りたいと思っている

③その他

10. 自然を守るのは難しい

※質問項目4と7については、回答尺度の調整のため、回答の最上位と最下位を入れ替えて分析を行った。

(4) 調査対象者

研修支援で利用した団体の参加者で、本活動を体験した1大学・2小学校の合計238名のうち、データに不備のない201名を対象に行い、分析は大学生と小学生に分けて実施した。

なお、本活動は他に中学校1校270名、小学校1校94名も予定していたが雨天プログラムに変更となったため、実施できなかった。

(5) 結果

本活動前後における参加者の中央値については、表1・表2に示したとおりであり、小学生、大学生ともに「自然への感性」、「環境配慮」における事前と事後では中央値が向上した。分析結果として、検定統計量が小学生では、「自然への感性」の項目では、 $P < 0.01$ と有意に向上しており、「環境配慮」の項目についても、 $P < 0.01$ と有意に向上している。さらに、大学生の群では「自然への感性」の項目では、 $P < 0.05$ と有意に向上しており、「環境配慮」の項目についても、 $P < 0.05$ と有意に向上している。これにより小学生の群と大学生の群ともに「自然への感性」及び「環境配慮」について、活動前に比べ、活動後では有意に向上したといえる。

表1：小学生

アンケート項目群	事前	事後
自然への感性	14	15
環境配慮	21	23
10. 自然を守るのは難しい	3	3

表2：大学生

アンケート項目群	事前	事後
自然への感性	12	13
環境配慮	20	21
10. 自然を守るのは難しい	3	3

(6) 成果と課題

本調査からも里地里山ウォークラリーを実施することで、参加者の「自然への感性」及び「環境配慮」の項目において、意識の向上が見られ、教育的効果が認められた。

本活動においては、小学校5年生の宿泊訓練で当施設を利用した際に実施することが多く、事前に学校での学習の中で水の環境や山の環境といった自然環境の学習、SDGsに関する学習を行っている学校が多い。

本活動を体験することで里山の現状を実体験することができ、参加者の声にもあるように「これからもっと自然を知り、守りたくなった」や「自然を守ることが改めて大切だと思った」といった学校で学んだ知識と体験から学んだことを結びつけることで、さらに学びが深まることも教育効果が高まる1つの要因として考えられる。

さらに、事前の先生方との打ち合わせの中では、自然の家利用後に学校で環境について学ぶ機会があるとのことで、自然の家での活動が今後の学校での学びを深めるきっかけとなるのではないかと考えている。

今後の課題としては、自然の家周辺の里山の環境も徐々に変化していくことも考えられるため、里山の状況に応じて、設問の変更や看板設置場所の移動等を検討する必要がある。

また、宿泊訓練後の授業の中で自然環境や生活環境の学習を行うため、有意が認められた「自然への感性」や「環境配慮」に対する意識に持続性があるかの追跡調査を行うことも検討するとともに持続性があるような活動内容に改訂していく必要もあるだろう。

7. プログラム化への経緯

(1) 背景

我が国が提唱したESDはまさに地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育である。

特に令和2年度（2020）から実施されている新学習指導要領や第3期教育振興基本計画において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、学校においてESDが推進されることが必要となっている。

しかしながら、この教育の実践においては、学校教育だけにとどまらず、当機構をはじめとする社会教育施設との連携により、益々の学びを得ることができると考えられる。

特に多くの学校が集団宿泊的行事として利用する少年自然の家において、立地環境を生かしたESDプログラムを開発・提供することはESDの推進をより具現化する上で大きな役割を果たすと考える。

そこで日本の典型的な里山に立地し、水源涵養力やそれによる減災の仕組み、様々な動植物の住処、里山の維持・保全等を学ぶことができる夜須高原青少年自然の家では、この里地里山を通じたESDの推進を目指して、プログラム化を図ることとした。

(2) 活動の概要

夜須高原の里地里山の自然を通じて、緑地及び生物の保全と里地里山の大切さを学ぶことをとおして、自分の生活と自然とのつながりを意識させることで、学校教育・社会教育連携型のSDGs教育・ESD活動の振興を図り、持続可能な社会の担い手を育成するため、里地里山ウォークラリーを実施する。

(3) プログラム化までの経緯

①過去の教育事業

ア. 令和4年度（2022）

a. 対象

「夜須高原の里地里山地域の文化」体験を通じたESD事業に賛同を得ることができた福岡県大牟田市の公立小学校A、Bの2校（A校は宿泊、B校は日帰り）を対象校とした。A校参加児童は全員が6年生であり、B校参加児童は、4年生10名、6年生15名であった。

b. 内容

- ・宿泊団体：里地里山ウォークラリー、ナイトハイク、竹細工づくり
- ・日帰り団体：里地里山ウォークラリー、水の浸透実験

c. 成果

アンケートによる調査を実施した結果、「みんなで協力することで自然を守ることができる」という項目について、事業前後での有意な変化が見られたことから今回のプログラムをとおして、自身の取り組みが自然環境に影響を与えることを認識するきっかけとなったと考えられる。

イ. 令和5年度（2023）

a. 対象

「夜須高原の里地里山地域の文化」体験を通じたESD事業に賛同を得ることができた福岡県大牟田市の公立小学校1校（宿泊型）を対象校とした。参加児童の全21名が4年生であった。

b. 内容

・宿泊団体：里地里山ウォークラリー、竹炭づくり、川遊び

c. 成果

アンケートによる調査を実施した結果、「子供の自分たちでも自然を守ることができる」の項目について、プログラムの実施前後で有意な変化が見られた。これは、参加した児童たちが日常的に木や花等の自然に親しむ機会はあるものの、森林等の山の自然にふれあう機会が少ないことが考えられる。

その中で、今回のプログラムをとおして、児童たち自身では山の自然に手を加えることができないほど山が荒れ始めており、その中でも竹害の被害が広範囲に広がっている現状を知ったこと、また、里地里山ウォークラリーで人の手で山を整備することが重要ということを知ることが要因の1つに考えられる。

実際に、アンケートの自由記述に「竹や木がこんなにあると思わなかった」や「竹を放置するとぼくたちの町が大変になることを知った」等の記述があり、今回のプログラムをとおして、山の荒廃や竹害の影響が山だけではなく、自身の身の回りにまで影響を与え始めていることを認識するきっかけとなったことが考えられる。

②プログラム化に向けて

過去の事業をとおして、アンケートによる調査の結果では、「みんなで協力することで自然を守ることができる」や「子供の自分たちでも自然を守ることができる」の項目について、事業前後で有意な差が見られた。さらには、参加した児童のコメントには、「森・川・海がつながっていることがわかった」、「みんなで自然を守り、森に手を入れながら自然を大切にしていきたい」、「竹や木がこんなにあると思わなかった」、「竹を放置するとぼくたちの町が大変になることを知った」等、里地里山ウォークラリーで体験したことのコメントが非常に多く見られた。これは、日常では体験できない里山の現状を知るという体験をとおして、実はその現状が自分たちの生活にも影響を及ぼすという現実を知るという児童たちの体験からの学びにつながったためと考えられる。

これを踏まえ、自然の家利用者の多くに同様の体験を提供したいと考え、里地里山ウォークラリーをプログラム化することとした。

8. 参考文献

遠藤秀平・山本清瀧（2022）小学校児童の自然遊びの現状と経験と短期宿泊型野外体験が環境意識の変化に及ぼす効果 日林誌104 10-17

「地域の実情を踏まえた体験活動事業」（特色化事業）報告書

発行日：2025年2月1日

発行所：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立能登青少年交流の家

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立吉備青少年自然の家

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

印刷所：株式会社iプランニング KOHWA

国立能登青少年交流の家

〒925-8530
石川県羽咋市柴垣町14-5-6
TEL : 0767-22-3121
FAX : 0767-22-3125
H P : <https://noto.niye.go.jp/>



国立吉備青少年自然の家

〒716-1241
岡山県加賀郡吉備中央町吉川4393-82
TEL : 0866-56-7231
FAX : 0866-56-7235
H P : <https://kibi.niye.go.jp/>



国立夜須高原青少年自然の家

〒838-0202
福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
TEL : 0946-42-5811
FAX : 0946-42-5880
H P : <https://yasu.niye.go.jp/>

